

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 熊毛支庁屋久島事務所農林普及課

課題名① 未来へつなぐ屋久島バレイショ						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	7	0		・耕畜連携を果樹でも取り組んで欲しい。 ・地力の底上げをまだまだして欲しい。	「土づくり」には長期的な取組みが必要ですので、今後も継続していきます。また、野菜畑だけでなく果樹園にも活動を拡大し、島内全体のベースアップを図ります。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	7	0		・適切と思われる。	ありがとうございます
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	7	0		・出荷量と栽培面積の推移で年次変化の要因分析の説明があったらよかった。 ・講習会で土づくりの大切さを周知して欲しい。 ・堆肥を施用したほ場の収量変化が見たかった。	・令和5年度 軟腐病や菌核病の多発 大玉傾向 ・令和6年度 病気発生「少」 ヒヨドリ被害「多」 ・令和7年度 乾燥による初期生育不良 そうか病の散発 講習会・座談会等での推進は継続します。 堆肥を施用したほ場の収量(または生育等)変化については、令和6年度と令和7年度の比較結果をまとめて情報発信を行います。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	6	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	7	0			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	3		・堆肥で増収が可能か、地域・個別で実証して欲しい。 ・植え付け方法にまだ課題があると思われる。	・堆肥による増収効果は今後も調査します。まずは、堆肥を投入する意欲のある生産者を中心に行い、結果を情報発信することで取組拡大を図ります。地域・個人によってこれまでの「土づくり」への取り組み方が違うので、増収につながるまでの時間と労力は異なることは予想されます。 ・定植方法については、すでに確立されたやり方があるのでペースは変わらないと思われます。ただし、定植の深さや土寄せのタイミング・回数には改善の余地があると思いますので検討していきます。
活動の 波及性と 改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	6	1		・単収増につながる地力づくり、堆肥づくりが必要と思われる。 ・屋久島の輸送野菜がバレイショであると伝えていく必要がある。	・堆肥投入(耕畜連携を含む)の取組みについては令和6年度から始まったばかりです。この活動を継続していくことで、増収につながると考えていますので、今後も普及推進を図ります。 ・ばれいしょの出荷は基本的に農協(くみあい食品)出荷のため、販売は「鹿児島ばれいしょ」となります。「屋久島ばれいしょ」としてPRできるようになるためにも、品質や単収向上に向けた活動を継続していきます。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	5	2			

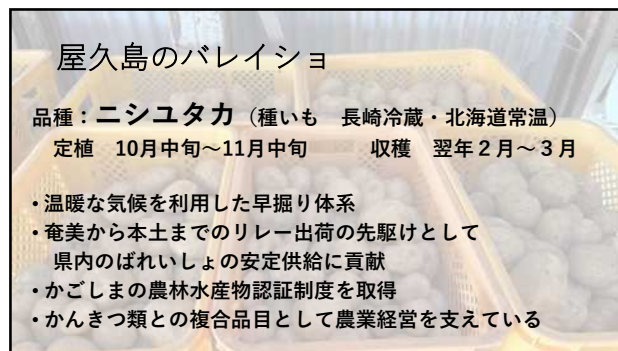
令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 熊毛支庁屋久島事務所農林普及課

課題名① 未来へつなぐ屋久島バレイショ						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	2			・単収向上のための環境整備はとても重要なことなので課題としては適切である。	ありがとうございます。 取組みについては今後も継続していきます。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2			・特に意見なし。	
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	2			・関係機関と連携し、活動がなされている。	ありがとうございます。 活動は園芸振興協議会や技術部員連絡協議会など、関係機関と一緒に取組みます。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	2				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2			・耕畜連携やドローン防除の協力農家も増加しており、効果は出ている。	1度経験した生産者については、効果を体感することができると継続してドローン防除や耕畜連携に取り組んでいます。 今後も講習会や座談会等での普及推進を図ります。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2				
活動の 波及性と 改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか		1		・省力化を図るためには、機械化が重要であるがそれに向けた推進・管理等関係機関の体制構築が必要。 ・ドローン防除のさらなる拡大を期待する。 ・土づくりはとても重要であるので引き続きお願いしたい。	・ドローン防除については、令和7年度で体系を確立することができました。また、機械化については屋久島地区に適した機械を検討中です。今後はメーカーとも連携し、導入に向けた活動を行います。 ・「土づくり」については、取組みを継続していくことが重要ですので、今後も普及推進を図ります。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか		1			



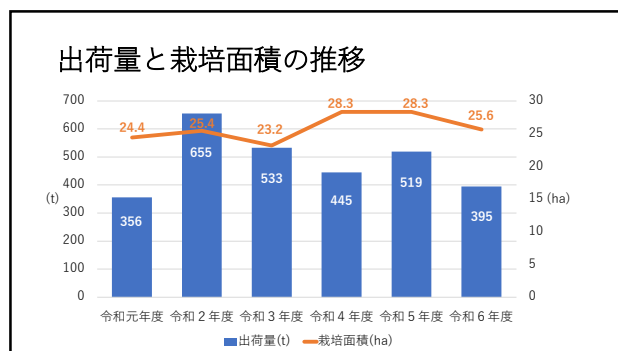
1



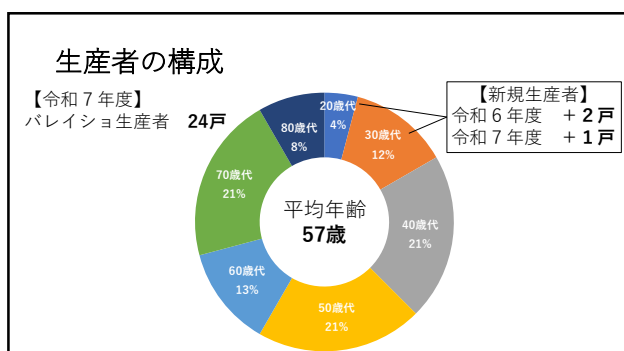
2



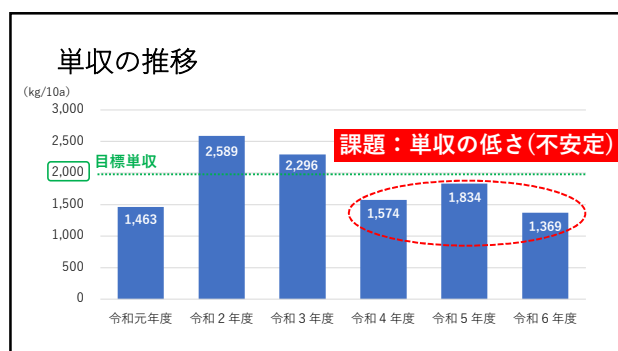
3



4



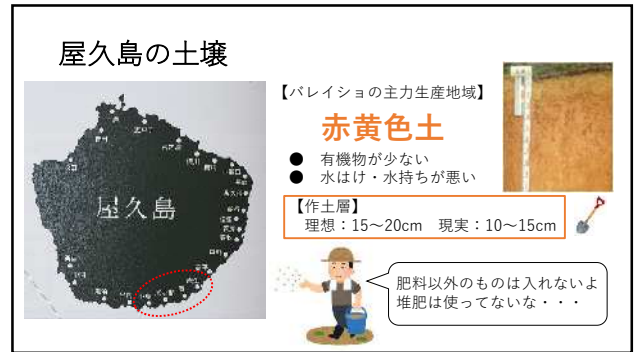
5



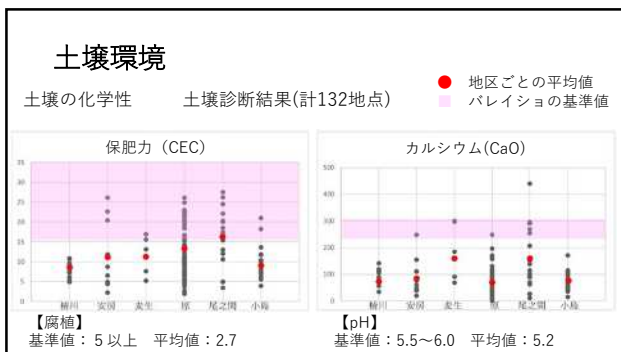
6



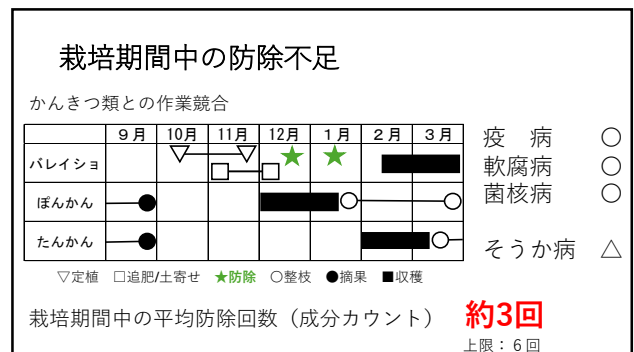
7



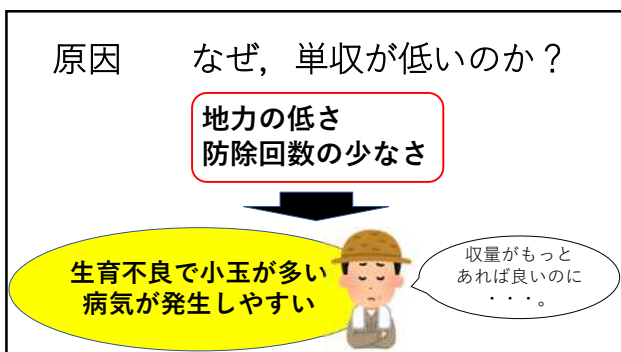
8



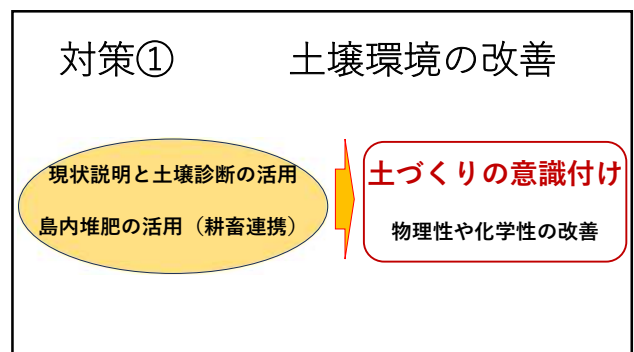
9



10



11



12

対策② 適期防除の推進

ドローン委託防除の普及
作業委託による防除回数の確保

防除の意識付け
省力化による防除拡大

13



14

支援体制の確立



15

現状説明と土壌診断の活用

各座談会で説明・土壌診断の推進



施肥設計までサポート

16

島内牛フン堆肥の活用

牛フン堆肥の製造・販売



牛フン堆肥の製造ラインを構築
安定的な堆肥供給が実現(R5～)

腐植の供給
物理性の改善

17

耕畜連携への取組み (R6～)

屋久島では初の試み



パレイショ栽培の準備期間までに
牧草残渣と牛フン堆肥をすき込んで返却

18

畜産農家とバレイショ農家が全面協力



島内での自給飼料の生産・確保
堆肥処理のルート構築

休閑期の雑草化防止
残渣と堆肥による「土づくり」

19

ドローン防除の効果実証 (R4～R6)

防除効果(令和5年度産バレイショ)

2024.1 慣行区



病気が発生し、葉が黄化

2024.1 ドローン防除区



病気は発生せず、生育良好

収穫直前の発病率は**1割以下**

→ 十分な発病抑制効果が認められた

20

ドローン委託防除に関わる経費



例) 農薬Aフロアブル	500ml	5,500円
茎葉散布	1,000倍	100L/10a
ドローン散布	16倍	16L/10a

10a当たり	動力噴霧器	ドローン(委託)
時 間	60分以上	0
農薬費	1,100円	1,100円
作業費	2,052円(2人)	1,870円
合 計	3,152円	2,970円

メリットは「時間」と「経費」

21

生産者への普及活動

実証結果の説明

予防防除推進チラシを配布

ドローン防除実演会(R5)



地域
全体
での
防
除

22

成果と今後の課題



23

土づくりに対する意識の変化

堆肥や石灰を使う生産者は増加

	R4	R5	R6	R7
牛フン堆肥(戸)	0	1	4	8
石灰資材(戸)	1	2	3	4



畑地帯
総合整備事業
の活用

24

土づくりに対する意識の変化

耕畜連携の取組みも拡大

	R6	R7
協力農家(戸)	2	6
取組面積(ha)	3.5	6



👉 牧草は300ロール以上収穫
食いつきも良好🐮

25

今後の課題 土づくりの継続

意識は向上し、活動体系も確立できた

ただし・・・
生育の向上につながるには時間がかかる

「土づくり」は単年度では結果が出にくい
今後も堆肥や石灰は継続して施用

26

防除に対する意識の変化

ドローン防除希望者は増加

	R5	R6	R7
取組農家(戸)	3 (+3)	4 (+1)	6 (+3)
総防除面積(ha)	3.2	5.6	7.5

病気もでないし
作業も全部おま
かせだから
とても楽!!



27

今後の課題 防除面積のさらなる拡大

防除効果・省力化は理解されつつある

リピーターは多い
でも、経験してみないとわからない

ドローン委託防除に対する
ボトルネックの解消方法を検討する

28

産地維持のために



29

抵抗性品種「しまあかり」の導入(R3～)

北海道でのシストセンチュウ被害拡大を受け、リスクマネジメントの一環として県内各地で導入中

・泥つきが少なく
・柔らかくで甘い



屋久島 地区	「しまあかり」 種いも入荷数
令和6年	5袋
令和7年	80袋
令和8年	300袋
令和9年	500袋

30

バレイショ収穫機の導入(R6～)

高齢化・労働力不足対策、新規就農者向けに機械による省力化を検討中

令和6年度 **ブルガール**



移動にトラックが必要
(写真は1.5tトラック)

令和7年度 **GSA600**



軽トラックに
積載可能なサイズ

31

まとめ



【課題】
単収の低さ

【原因】
地力が低い
防除の不足

【目標】
平均単収2t/10a以上を維持し
安定した出荷量を確保できる産地

【成果】

- 土づくりと防除に対する意識向上
- 堆肥の施用や委託防除の増加

【取組】

- 堆肥や石灰の推進【耕畜連携】
- ドローン委託防除の推進

+ α 【産地維持】

- シストセンチュウ対策
- 収穫機械導入検討

32



33